

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果と考察、ならびに今後の本校のとりくみについて

4月18日（木）に全国の中学3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果について、本校の概要や今後の取組をお知らせします。

丹波市立柏原中学校

学力調査の結果と考察

【国語】…全国の平均正答率と同程度

- 成果 話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する問題や、物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する問題は、正答率が高い。ペアトークやグループ学習を設定し、個人思考から集団思考の流れの中で思考を深めていく学習方法の成果が表れている。
- 課題 文中の語句の意図を説明したものを選択する問題や、表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する問題など、表現の効果を考えて描写し自分の考えが伝わるように文章を工夫することに課題が見られた。さまざまな文章に触れる機会を増やし、作文などにより表現する力を磨いていく必要がある。

【数学】…全国の平均正答率よりやや低い

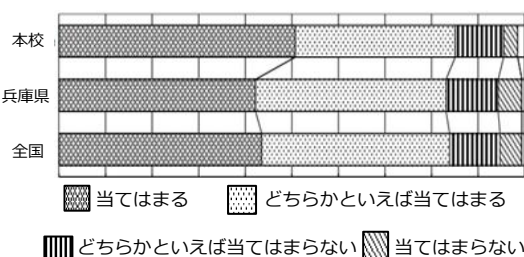
- 成果 2枚の硬貨を同時に投げるとき、2枚とも裏が出る確率を求める問題や、与えられたデータの分布から四分位範囲を正しく利用して問題を解決する問題について、理解できている生徒の割合が高い。普段からタブレット端末を利用して問題解決を図ったり、データを表やグラフにして扱ったりする機会を増やした成果と言える。
- 課題 抽象的な概念を要する問題には課題がみられた。また、記述問題のうち4問で無回答率が全国の無回答率+10%以上高い。ドリル学習を定着させ、基礎的な四則計算を身につけさせる必要がある。また、ペアトークで自分の意見を言えるだけでなく、ノートやレポートで自分の考えをアウトプットする機会を増やす必要がある。

質問紙調査の結果より

【成果】

「学校に行くのは楽しいと思いますか」の問いに、「当てはまる」が50.7%、そして「どちらかといえば当てはまる」との肯定的回答は85%である。また、「学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」の問いにも88%が肯定的回答をしている。これは、学校生活が安定している結果であり、前向きに学校生活を送り、学級活動にも主体的に参加できている生徒が多いことを示していると思われる。ただし、「楽しくない」などの否定的な回答を数%がしていることも忘れず、きめ細やかに生徒の学校生活を支援していく必要がある。

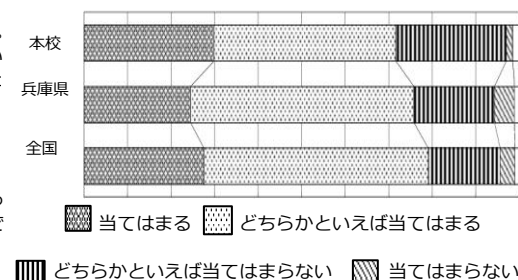
学校に行くのは楽しいと思いますか



【課題】

「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると考えますか」の問いに肯定的な回答は71.7%（全国79.0%）であった。また、「学校の授業以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか」の問いに、「2時間以上」と答えたのは14.9%であった。（全国31.7%）この結果から、勉強が学校の学習で完結している生徒が多く、家で計画を立てて学習に取り組めていないと考えられる。これは昨年度と同じ傾向で、引き続き家庭学習が定着していないといえる。「将来の夢や目標を持っていますか」の問いに対して肯定的な回答は56.7%であった。将来の夢や目標をもって、自分で計画を立てて学習する力を育みたい。

授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると考えますか



今後の本校のとりくみについて

- 「国語の勉強は好きですか」の問いに肯定的な回答は、77.6%（全国64.3%）であり、国語への関心・意欲を学力向上に結びつける。具体的には、基礎学力の定着に向けて、継続して漢字や文法事項の小テストに取り組む。また、表現力を身につけるため、授業内で作文などの表現活動を積極的に設定する。
- 数学的分野の基礎となる正負の計算や文字を含んだ四則計算については、反復練習（ドリル）をする習慣を身に付けさせ、自分の考えをアウトプットする機会を設定する。
- 生徒が主体的に学び合う授業を推進するため、さまざまな場面でペアトークや小グループ学習の機会を設け、伝えあい、話し合ったうえで、自信を持ってそれをまとめ表現できる能力を高めていく。また、自分の言葉で説明する場面を意図的に設定し、論理的に説明できる（アウトプット）能力を高めさせる。
- 授業のユニバーサルデザイン化を継続することで、生徒全員が参加できる授業づくりを推進する。
- すべての授業において、授業の始めの「めあて」の提示、授業終盤での「ふりかえり」を大切にすることで、見通しを持って学習に取り組めるようにする。
- 生徒ができないときのアドバイスだけでなく、頑張っている過程やできたときに褒める「評価言」をタイミングよく、分かりやすく生徒に伝える。
- 効率的にICT機器を活用した授業実践をすすめ、授業内での活用場面を通じて、ICTの有用性を実感する場面を設定する。
- 普段の生活や、将来社会に出たときに役に立つ事例を、教師が授業の中で提示することで、その教科を学習することの大切さを実感させる。
- 家庭学習の定着を目指し、自ら計画を立てて復習や問題演習などに取り組めるように意識を高めていく。
- 家庭学習を充実させるため、選択課題やICTを活用するなど、各生徒に合った学びを工夫する。
- 夢や目標を持って努力できる自立した生徒の育成を目指し、キャリア教育を通じて自己肯定感や自己有用感の醸成を図る。



『 ころ豊かで、自立する生徒の育成 』
～ 学び合い、支え合い、鍛え合う柏中生